

令和7年度 都留市コミュニティ・スクール特別学習会 実施報告書

- 日 時 令和8年1月13日（火）午後15時～16時30分（90分）
- 場 所 教育プラザ都留3階大会議室
- 目 的 コミュニティ・スクール事業の持続発展へ向けた理解促進と横のつながりの生成
- 講 師 文部科学省CSマイスター 井上 尚子 氏
- テーマ 「コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会の進め方」
- 参加者 各学校運営協議会委員（地域住民、保護者、校長等）、学校評議員、教職員、市内各大学関係者、その他地域関係者などの希望者 総勢約50名

➤ 第1部「コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会の進め方」講演

コミュニティ・スクール（以下「CS」という。）の本質と学校運営協議会の役割について、制度面と実践の両面からお話されました。CSは、学校・地域・保護者が目標やビジョンを共有し、協議会を通じて学校運営に主体的に参画する仕組みであり、承認・意見・協働を軸に持続可能な学校づくりを目指すものと説明がありました。特に重要な事項として、「**熟議**」による**課題共有と解決、地域資源を活用した教育活動の推進、コーディネーターを中心とした連携体制の構築**を挙げられました。また、委員は批評者ではなく当事者として関わり、役割分担のもと実践に参画することが求められ、こうした取り組みを段階的に進め、評価と改善を繰り返すことで、地域とともにある学校づくりの実現が図られるといったお話がありました。



➤ 第2部「学校と地域の協働における成果、課題、今後へ向けて」ミニ熟議

CSの運営においては「**対話**」と「**理解し合うこと**」が**重要**であるとし、その中心的機能となる「**熟議**」の手順や約束事の例とともに、都留市学校運営協議会のこれまでとこれからを話し合うというねらいでミニ熟議が行われました。



➤ 熟議で出た意見

<p>成果 うまくいっていること</p>	<p>「委員間のコミュニケーション」「児童や教職員も含んだ熟議」「熟議での会話の広がり」「学校や先生方への理解が深まってきている」「委員と児童の関係」「児童生徒の地域行事への参画」「地域人財の活用（クラブ・防災関連・農業体験・文化振興・読み聞かせ等）」「これまでの地域と学校のつながりが生かされている」「顔が見える関係性を作れてきている」「協働のまちづくりとの連携」「スクールガードと学校との連携」「小中のつながり」「幼保との連携」「企業・行政・大学との連携」「交流の場、カフェ谷ニッコリ😊」「委員さん方が教員に負担をかけないように考えてくれている」「委員さんが積極的で協力的」など</p>
<p>課題 困り感、疑問</p>	<p>「地域での周知」「コーディネーターの不在」「まだまだわからないことがたくさんある」「委員と先生方との接点が少ない」「委員人選」「協議会の出席率（開催時間の調整）」「防犯とあいさつのバランス」「放課後子ども教室の指導員不足」「事業の進め方」「育成会との関わり」「教員の負担は増えているのか減っているのか」「叱り方がわからない」「学校の仕組みを知りたい」「居場所は足りているのか、何かできることはあるか」「先生方の悩みや本音（手助けをしたい）」「担い手の固定化」「持続可能なのか」など</p>
<p>チャレンジ 今後こういうことしたい！</p>	<p>「学校経営方針の共有」「情報の発信（もっと学校の様子を知ってもらおう）」「地域探究」「コーディネーターの発掘（後継者としての育成）」「PTA への理解促進と連携」「学区人材マップやマッチングアプリの作成」「ご意見箱の設置」「知り合う時間を増やす」「先生と委員間でコミュニケーション」「あまり欲張らずできることを積み重ねる」「地域の方々にもっと学校に来てほしい」「地域の資源を教育課程に落とし込んでいく」「つるラボの活用」「役ではなく志ある方を委員さんに」「今日のような機会を開く」など</p>

➤ 終了後の振り返りの声（抜粋）

「満足度」は 100% 肯定的回答（「出席してよかった」1~4 の 3.4 にあたる）となり、今後このような機会を求める声が多くありました。

CS 委員・学校関係者・保護者

- ・ CS についての理解が深まった。多方面の関係者と知り合えた。
- ・ 地域には、子どものことを考えている人がたくさんいることが分かった。
- ・ 地域で子どもを育てていく事で、子どもたちが大きくなり、また地域に戻ってくるという言葉が印象に残りました。
- ・ 年代はバラバラであったが、共通の感覚があったことが嬉しかった。
- ・ 準備段階の学校もあり、参考程度の話ができた事は、自分の自信にも繋がりました。さらにレベルアップを図れるよう、このような会に参加したいと思います。
- ・ 現場の方々のお声を聞いてよかった。みなさまとても優しく人間性が素敵でした。

教 職 員

- ・出席者の方々がとてもCSに前向きな方ばかりで心強く思った。
- ・文大の先生が、都留市のデジタル人財地図を作ることができるとおっしゃっていました。実現するといいなと思いました。
- ・成果や課題、方向性が見えた。市内全学校が集まり、自校だけではなく、他の学校でも取り組んでいることが共有できた。
- ・都留市全体の研修会やCSの説明会を継続してほしいです。



➤ 総 括

本学習会は、文部科学省「CSマイスター等派遣事業」（プッシュ型支援）の一環として企画・実施しました。外部のエキスパート人材を有効的に活用していくことが、**持続・発展性を担保する手立ての一つ**ともなると改めて確信する機会となりました。

設置校の5校（宝小・谷二小・東桂小・東桂中・禾一小）と設置推進委員会設置校（禾二小）の1校、CS未設置校（谷一小・附属小・都留一中・都留二中）の4校、すべての学校関係者が出席したため、**ボーダーを越えた賑やかな会**となりました。CS経験者には、今やっていることの意義の再認識や知見を広げる機会に、CS未経験の方々には、大学の教授も含め、先を見据えた「地域と学校の協働」の意味や事例、都留市の現状（成果、課題感）、持続発展に必要なポイント等をご認識いただける機会となりました。また、CSの持続・発展のカギを握るコーディネーターの役割や重要性について**共通認識を**図ることができた点も大きな成果です。

こうした、**都留市全体の情報共有や学び合い、理解の深化や自己診断、そして横のつながりの生成**につながる機会は、継続的に実施し、理解促進を図っていくことが重要であると考えます。その際、**先生や地域関係者・保護者がより多く参加**できるよう、早い段階から**企画・周知**をしていきたいところです。

「CSマイスター等派遣事業」の全体の総括として、都留市全体の「地域と学校の協働」の盛り上がりが垣間見えると同時に、その“盛り上がり”をいかに持続・発展させていけるのか、その豊富な知見をいただくことで、委員会におけるその点の協議を前に進めることができ、非常に意義深い2日間となりました。

以上